親潮

-96 号
平成 22 年度　第 2 号

OYASHIO

http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp

ガゴメ幼胚（200-500μm）
小型透明のかたまりは雄性配偶体が造精器をつくったところ。

特　集
北水の今

■東南アジアの持続可能性水産科学を担う若手・女性研究者育成プログラムについて
■マリン・イノベーションが拓く新たな海洋産業と地域活性化

□追悼　□寄稿　□クラス会報告　□著作紹介　ほか

北水同窓会誌
2010 296 No.2
親潮
第 296 号
平成 22 年度　第 2 号
OYASHIO

CONTENTS

第91回(2011年)北水同窓会定期総会 開催案内 …… 3

特集 北水の今

水産学部国際交流プロジェクト
東南アジアの持続可能性水産科学を担う若手・女性研究者育成プログラムについて …… 4
荒井 克俊(昭51ゾ)

マリン・イノベーションが拓く新たな海洋産業と地域活性化 …… 6
安井　肇(昭55ゾ)

追悼 …… 10
鈴木 恒由 氏(昭20ギ)／高林 信雄 氏(昭56ギ)／
中村 一雄 氏(昭10ヨ)／辻田 時美 氏(昭12ヨ)／佐藤　修 氏(名誉会員)

寄稿 …… 14
島崎 清康(昭17ギ)／田中 正晴(昭25遠ギ)／山本 洋一(平2ギ)

クラス会報告 …… 18
臥牛会の閉幕を迎えて／北水35年卒 同期会／昭和37年卒業 第9回同期会・青森／
北ビー(38−42)会 開催近況／北水同窓会京滋支部総会の報告／
平成22年度北水同窓会大阪府支部総会・講演会・懇親会報告／
第60期同期会の報告／北水同窓会広島県支部会開催の報告／
昭和60年化学科卒同期会／北水同窓会函館支部 平成22年度 総会・懇親会

著作紹介 …… 28
野呂雅之(昭56ギ)

会員死亡通知 …… 30

親潮投稿規定・編集後記 …… 30

第91回(2011年)
北水同窓会 定期総会

開催案内 ［東京都にて開催！］

ようやく春めいて参りましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。
第91回北水同窓会定期総会を下記の通り東京都にて開催いたします。
多数の同窓のご出席を心よりお待ちしております！

●開催日●

2011年5月27日(金)
定期総会, 支部総会 18：00～
懇親会 18：50～

●会　場●

ライオン銀座7丁目店
クラシックホール
東京都中央区銀座7丁目9−20
ライオン銀座7丁目ビル6階
Tel：03−3573−5355
http://r.gnavi.co.jp/g008212/map/

●会　費●

7,000円
但し,75歳以上と卒業より3年以内の会員は無料、女性は半額

総会参加希望の方は「1. お名前」、「2. 卒業年・学科」、「3. 連絡先住所」、「4.Fax番号・電話番号・E-mail アドレス」を **5月6日(金)までに** 下記お申し込み先まで FAX または Eメールにてお申し込みください。

お申し込み先

メール
北水同窓会東京支部幹事長
浜谷一郎（昭51化）宛
ihamahama21@yahoo.co.jp

FAX
北大同窓会東京支部長
鈴木和三（昭38ゾ）宛
FAX 03-3561-9327
（海洋土木株式会社 FAX 番号）

水産学部国際交流プロジェクト

東南アジアの持続可能性水産科学を担う若手・女性研究者育成プログラムについて

大学院水産科学研究院教授　荒井 克俊（昭51ゾ）

北大水産学部は、東南アジア圏において、大学間協定に基づきタイ王国カセサート大学、アジア工科大学と、また、部局間協定によりＳＥＡＦＤＥＣ（東南アジア漁業開発センター）、ワライラック大学と種々の形で研究者・学生交流を行い、教員が相互に訪問して交換授業も活発に行ってきました。この様な活動の一部は2004-2008年度に採択された21世紀ＣＯＥプログラムにより支えられてきましたが、本プログラム終了後、アジア諸国との国際交流を如何に行うかという点が課題となっていました。国際交流においては、継続性が大変重要です。一度交流が中断すると元の状況まで交流を活性化することが極めて困難です。標記プログラムは、ＪＥＮＥＳＹＳ（21世紀東アジア青少年大交流計画：Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths）という大きな事業の一環であり、そもそもは、2007年1月にフィリピン・セブ島で行われた第二回東アジア首脳会議（ＥＡＳ）における、「350億円の予算で会議参加国の若手研究者、青少年6000人を日本に招へいし、交流によりアジアの強固な連帯を目指す。」という安部晋三総理（当時）の主唱により動きだしたものです。この一部として、日本学術振興会による「若手研究者交流支援事業－東アジア首脳会議参加国からの招へい－」の募集があり、水産を考える上で東南アジア諸国との交流は欠かせないことから、学内の様々な意見を集約して応募したところ、幸いにも採択されたものです。このプログラムの特徴を述べると一つには「効率的な水産技術を発展途上の東南アジア海域に移転する」という従来型技術協力の企画とは一線を画し、「持続可能な水産業の構築を目指す新世紀の水産科学」という点に重点をおいた点です。従って、個別の技術論ではなく「サスティナビリティ」という新しい観点から、水産を体系的に理解してもらおうということを強く打ち出しました。もう一つの特徴は、女性教授・研究者の活躍が著しい東南アジア諸国の状況について、我々も本プログラムを通じて学び、水産科学分野での男女共同参画推進と女性研究者支援を進めようという点です。

バンコクでの取り纏めの国際ワークショップにおける集合写真

標記プログラムでは、平成21年10月15日～平成22年9月30日のほぼ1カ年の期間に、上記のパートナー大学・地域国際機関の若手研究者・教員・大学院学生合計14名を20 ～ 45日間、北大水産学部に招へいし、本人の希望した学問領域（プランクトン、資源管理、発生生物学、魚病学、頭足類生態学、魚類分類学、食品生化学、衛星海洋学等）における研修・共同研究に従事してもらいました。これらの招へい若手研究者は平成21年11月からの各パートナー大学・機関への公募に応募した候補者の中から、書類選考と面接（平成21年11−12月に教員2名派遣）により選考したもので、水産学部近辺のホテルと平成22年3月より北晨寮内のゲストハウス「おしょろ」（親潮295号参照）を宿舎として、個別の共同研究のほか下記に要約する行事に参加してもらいました。

(1) フィールド視察：平成22年5月、函館近郊食品加工施設、養魚実習施設等見学
(2) 体験授業：平成22年5−6月、延べ7回、学部生・大学院生対象の講義（英語）
(3) 国際セミナー：平成22年7月北大水産学部、「東南アジアに学ぶ女性研究者の育成」、招へい若手女性研究者3名、北大留学生1名、招へい講演者1名による講演と討論（10カ国78名参加）
(4) 国際シンポジウム：平成22年7月北大水産学部、「アジアにおける持続可能な水産に向けた若手・女性研究者の役割」、北大帰山教授、広島大山尾教授の基調講演の後、小グループディスカッション（英語）と発表コンテスト（10カ国83名参加）

(5) 国際ワークショップ：平成22年8月タイ王国バンコク市カセサート大学、「東南アジアの持続的水産科学のための若手・女性研究者育成」、招へい研究者14名による北大での研修・共同研究成果報告と派遣元の4パートナー大学・機関による本事業の評価、将来における課題解決のための全体討論（5カ国67名参加）

これらの活動を通じて、配属先の各受入れ研究室の教員、大学院生、学部生のみならず、様々な国からの水産学部で学ぶ留学生とも、交流を深めることができ、将来的なネットワーク形成に寄与しました。また、招へい研究者に対する受入れ教員側の評価も高く、1カ月という短期の滞在にもかかわらず、共同研究成果について論文投稿を準備する者もおり、双方に与えた刺激・影響も大きかったと評価できます。

本事業は平成22年9月末に成功裡に終了しました。この事業の後継となる複数のプログラムについて現在申請を行っていますが、その採否は現在のところ未定です。水産科学はもとより国際性の高い学問であり、水産学部における国際交流活性化は欠かせないことから、今後、この方面に対する同窓諸兄の一層のご支援を賜りたい。

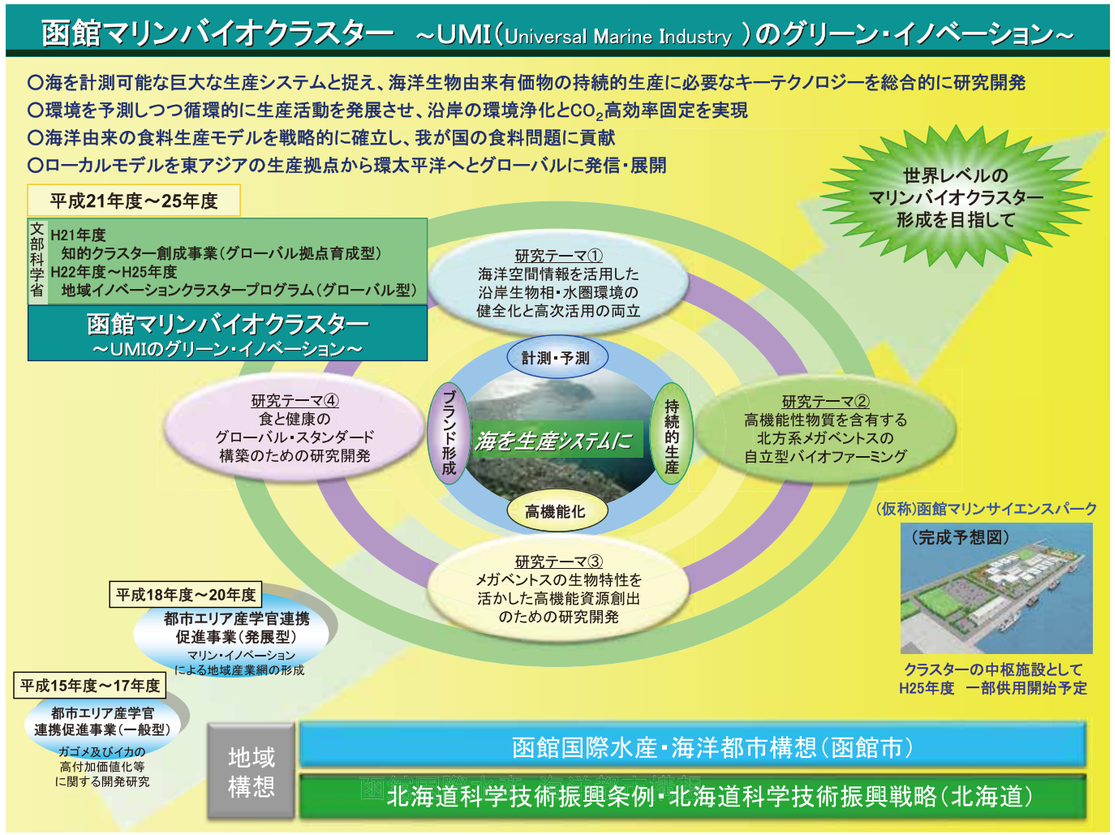
マリン・イノベーションが拓く新たな海洋産業と地域活性化

―知的クラスター創成事業（グローバル拠点育成型）【函館地域】―

安井　肇（昭55ゾ）

北海道大学水産学部は、平成22年度から函館市、函館地域の大学・研究機関・企業等とともに「文部科学省知的クラスター創成事業（グローバル拠点育成型）」に選ばれ、「函館マリンバイオクラスター」として取組んでおります。本稿では、「北水の今」の紙面を御借りして、標記事業を行う事に至った経緯を同窓の皆様にご紹介させていただきます。

ガゴメのマリンファーミング



■「函館マリンバイオクラスター」の背景

函館市は、海に囲まれた自然および歴史・文化に恵まれた観光都市であり、古くから水産業を基幹産業としてきました。またこのエリアには、水産・海洋をとりまく課題の解決や、産業の創出を担う学術研究機関や関連産業が集積しています。このことは、水産・海洋に関連した産業を高度化できる基盤があることを意味します。現代社会が抱えている食糧・環境等の課題を克服し、将来的に産業発展をさせながら豊かなまちづくりを目指す環境が整っていると考えることができます。このような環境を活かした地域活性化を目指すため、函館市は、「函館国際水産・海洋都市構想」を平成15年に策定して地域の学術研究機関や関連機関の一体化を図り、平成22年には「一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構」を設立するに至っています。

この機構の設立に至るまでの期間に、産学官が一体となって獲得した「文部科学省都市エリア産学官連携促進事業(都市エリア事業：平成15～20年度)」のような公的資金や、北海道と函館市の多様な施策等により、函館周辺海域に産するガゴメ（褐藻、トロロコンブのなかま）を資源とする研究開発事業を行ってきました。その中では、フィールドにおけるライフサイクル特性の解析、陸上養殖による有用な構成成分の解析とその回収法の開発、培養による含有量の変化の解析など、基盤となる生物学的、食品化学的な情報を積み上げました。さらに、これら研究開発情報は、産学官で有機的に共有・利用し、既存産業と異業種参入によるガゴメ関連の新製品（約100品目）などにつなげました。

都市エリア事業のロゴマーク▶

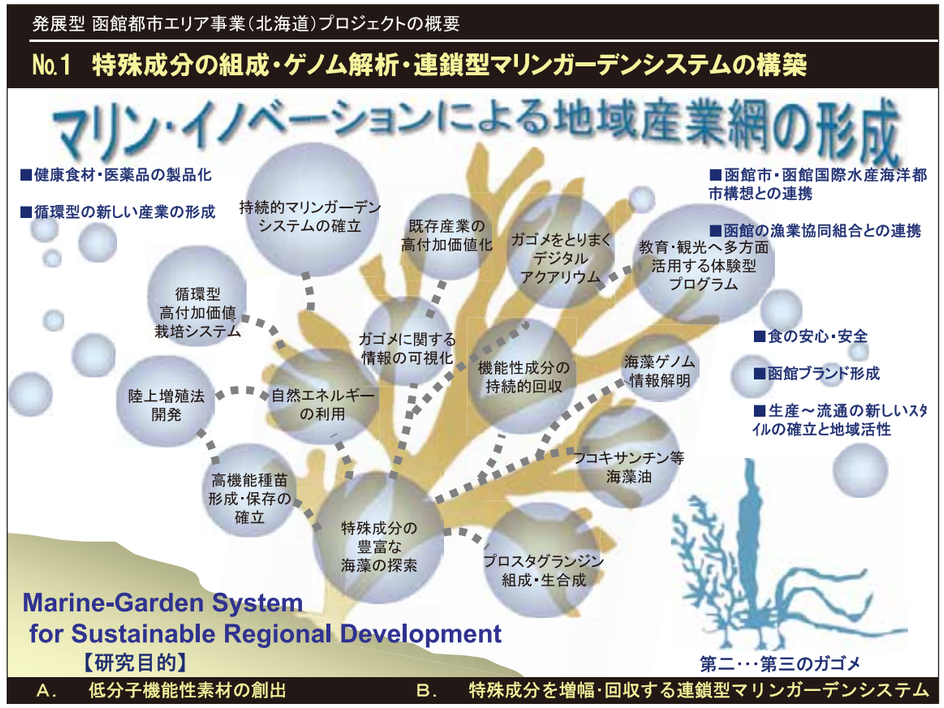
様々なガゴメ商品

■「函館マリンバイオクラスター」の目標

都市エリア事業後の平成21年度からは、マリン・イノベーション（既存の知識や科学技術に新しいアイデアを加え、互いに連携し合う形で、従来とは異なった海洋、特に沿岸域の価値を見いだそうという試み）という課題で地域活性化を進展させています。この中では、地域に特産する沿岸生物を素材にして、科学技術を産業振興に結びつけた研究開発や事業化が行われています。「函館モデル」とも呼ばれる産学官連携基盤から生まれてきた海藻研究を展開し、「函館マリンバイオクラスター」として新海洋産業のモデル構築の研究に取り組んでいます。政権交代による仕分け作業により継続が危ぶまれましたが、平成22年度から再スタートし,さらに広範な発展を目指します。ここでは、生物資源の沿岸環境における役割を再認識し、沿岸生態系における海藻の役割、藻場造成、海藻の利用方法・鮮度保持技術、健康性機能、トレーサビリティーなど、沿岸生物資源を核とした持続可能な水産・海洋産業のありかたを模索しています。

風力と太陽光を利用

自然エネルギーを活用した
メガベントス陸上栽培モデル
北海道大学水産学部1F（2009年）



函館マリンバイオクラスター」研究テーマ②および③の概要

■「水産学、北水、函館地区」の将来

日本列島は、南北に長く多様な気候と地形をもち、沿岸岩礁域には様々な海藻が繁茂しています。緑藻、褐藻、紅藻に大きく分けられる海藻は、千年以上前の「風土記」、「延喜式」に記載されています。古来より日本では、海に生えているワカメ、アラメ、コンブ、ヒジキ、アマノリ、フノリ、ツノマタ、ミル等を採取し、それらを衣食住に有効利用する独自のライフスタイルが、しっかりと定着していたのです。中国古代の史書、「魏志倭人伝」も3世紀前半の倭人の特徴的な風俗を、「倭の水人は好んで魚貝類を捕らえ、皆、水の深浅にも関わらず潜りこれらをとる」と伝えています。新しい国家としての日本の幕開けの大和時代には、万葉集において、海辺の情景としての乙女らの藻刈り、魚取りなどが数多く描写されています。

水産資源と密接に関わる風土であるため、わが国の大きい変革の時代である明治初期には、札幌農学校（北海道大学の前身）ではじめて水産動植物の研究（宮部金吾、内村鑑三等）や近代港湾の設計（廣井 勇）等のような水産科学の教育・研究が自発的に生じてきています。水産という概念や海からの発想は、その後の各時代の中で文化の基層となって途切れることなく人、自然、社会と関わり続けています。それで歴史的な変革点にくると形を変えて、われわれに課題や問題解決の糸口を提示してくれるように感じられます。社会、価値観、安全、ライフスタイルなどが大きく変わろうとしている現代、水産や地域の故を温めることで、次世代の健全な社会や文化に貢献する新しい海の宝や糧が得られると信じています。

宮部金吾（植物学）

内村鑑三（水産学）

HUMAN RESOURCE DEVELOPMENT

新水産・海洋都市はこだてを支える人材養成事業

「都市エリア事業」や「バイオクラスター」事業では、産学官の交流・協力体制がその発展の大きな力になってきていました。新しい産業の萌芽と成長には、異分野の人材の交流が欠くべからずものであることが明らかです。今後の国際水産・海洋都市に向けての発展のためには、海洋・水産科学分野をはじめとする広い知的経験を有し、異分野を結びつけ、さらには推進機構の機能的な運営をコーディネートできる人材の養成が急務と考えました。そこで、文科省科学技術振興調整費を得て、「新水産・海洋都市はこだてを支える人材養成事業」を開始しました。これは、将来的に活力ある地方分散型社会に向けて、大学等が有する個性・特色と科学技術をベースに、地域活性化に貢献し得る優秀な人材（「水産・海洋コーディネーター」および「海のサポーター」）を輩出する知の拠点づくりを目指しています。ここでは、選抜された社会人に対し、就業後に様々な分野の講義や実習を行い、広い知的経験を積んでもらっています。北大水産学部が大学教育を超えて、社会の発展のための社会人教育をはじめていると考えて下さい。

このコーナーに対するご意見やご感想等をお寄せください。北水同窓会宛のメール（hokusui@hotweb.or.jp）で結構です。親潮の末尾に「同窓生の声」という形で掲載し、また紙面の改善に利用させていただきたいと存じます。

追悼寄稿

おおらかだった恒さん、安らかに

野呂雅之（昭56ギ）

東京水産大との定期戦を控え、ラグビー部の顧問だった恒さんの研究室を訪ねた時のことだ。

その前年に七重浜のグラウンドでは大敗していたので、必勝を誓うために訪ねたはずなのに、どうした拍子からか、東水戦に勝てば測器学の4単位を無条件でもらえるという約束を取りつけた。

私が主将を務めたその年、1980（昭和55）年は東京に遠征し、東水戦にかろうじて勝利を収めた。これで測器学の単位は大丈夫と勉強もせずに試験に臨んだ。

恒さんこと鈴木恒由先生は漁業学科測器学講座の教授で、先生の専門である測器学はけっこう難しい。勉強しなくて合格できるはずもなく、もちろん恒さんは約束したことなど覚えていなかった。当然のように成績は不可だった。

ここからが、「恒さん」であった。

「東水戦に勝ったら単位をくれるって約束したじゃないですか」と談判すると、恒さんは「そんなこと約束したか？」。測器学の4単位がないと卒業できないと迫ってみると、あの少し嗄れた声で「おまえ、本当に卒業できないのか」と言いながら単位をくれた。

ラグビー部の顧問とはいえ、そんなことを頼めたのはまさに恒さんだったからだ。多くの学生たちが、おおらかなその人柄を慕っていた。

いつも少しくたびれた白衣を着ていて、恒さんといえばその白衣姿を思い出す。ラグビー部の宴会では十八番の「独航船」を歌い、学生たちが「どこどっこい」と合いの手を入れるのが恒例だった。

その磊落な性格から決して学究肌とは思えなかったが、函館のイカに関しては権威だった。

だが、そう知ったのは、卒業してずいぶん経ってからだ。学生には権威ぶることなく、慈父のように接してくれた。

ラグビー部副将の野崎雅俊君は増殖学科だったが、ラグビー仲間である大西信幸君のいる測器学講座に入り浸っていた。その野崎君のために恒さんは机を提供して、講座で催すお茶の時間には毎回のように招いてくれたのだった。そのうえ野崎、大西両君の就職先まで世話してくれたのも恒さんだった。

就職といえば、私が最初に勤めた冷凍機の製造会社もいわば恒さんの紹介だった。

卒業直前の2月になっても就職が決まっておらず、ある日、恒さんから研究室に呼ばれ、こう言われた。

「野呂、おまえ就職決まってないんだろ。北水のOBが『人買い』に来るから、サクラでいいから出席してくれ」

きっと、就職先も決まらない不出来な教え子のことを心配してくれていたのだろう。ぶっきらぼうな口調からは、そんな気遣いが感じられた。

しばらくして学内であった冷凍機会社の説明会に出席して履歴書を書いたら、1週間ほどで内定通知が届いた。卒業して日雇いの生活でもしようかと思っていたが、さすがに両親の顔が浮かんで、そのまま就職したのだった。

結局、その会社は半年で辞めて迷惑をかけてしまったが、恒さんは批判がましいことを何ひとつ言わなかった。会社説明会に来られた北水OBに、恒さんは「逃げられたな」と言っただけだったという。

最後に、恒さんにお会いしたのは亡くなる5年ほど前のことだ。測器学講座0Bの大西、「もぐり学生」野崎の両君ら10人ほどで恒さんのご自宅を訪ね、その時初めて面と向かって冷凍機会社を辞めたことを報告した。恒さんは病を得て言葉が不自由だったが、かつての磊落な人柄をおもわせるそぶりで「気にするな」と言ってくれたようだった。

恒さんの訃報は、函館在住の野崎君から届いた。お通夜にあたるキリスト教の前夜式に参列するため、函館空港から元町の教会に向かった。退官してから20年以上も経っているが、面倒見のよかった恒さんの人柄を偲ばせるように、そぼ降る雨のなか100人を超える北水OBらが参列していた。

お世話になりました、恒さん。安らかに眠ってください。

◆　◆　◆　◆

北水同窓会の幹事長を務める飯田浩二先生から追悼文を書く機会をいただいた。飯田先生は恒さんの跡を継ぐ測器学講座の教授。追悼文とともに、私が朝日新聞土曜版の企画「うたの旅人」に書いた北大の校歌「永遠の幸」の記事も掲載するという栄誉をいただいた。この場を借りてお礼を申し上げたい。

恒さんに紹介してもらった冷凍機会社を辞めた後、一年半にわたって日雇い労働に就いた。明日を見通せない生活のなかで、「永遠の幸」を口ずさんでは自らを鼓舞してきた。そんな校歌を持てたのは誇りでもあった。

新聞記者になって28年。社内であった「うたの旅人」の公募に応じて、校歌を記事化できたのは望外の喜びである。

ご一読いただければ幸いです。

高林信雄君（昭56ギ）の死を悼む

北水同窓会青森支部

平成22年8月1日、高林信雄君は、彼が好きだった海での事故で亡くなりました。余りにも早く、そして突然のお別れでした。

高林君は、昭和56年に北海道大学水産学部を卒業し、同年4月に青森県庁に勤務し、以来、大学で学んだ専門知識を活かし、一貫して青森県の水産行政や研究分野で卓抜した才能を発揮されました。亡くなった当時は、農林水産部水産局水産振興課漁業管理グループマネージャーとして、まさに油の乗り切った、欠くことのできない人でした。職場では、後輩はもとより先輩の方々からも、実績と見識を認められ、信頼され、特に近年は、漁場をめぐる漁業紛争の解決に陣頭指揮を行うなど多事多難の漁業調整の任にあたり、関係漁業者の信頼も篤く、青森県の水産振興に大きな成果を残しました。

一方、私生活ではアウトドアスポーツを通じて多くの仲間と大いに遊び、高林君に引きずられて、夏はサーフィン、カヌー、冬はスノーボードを楽しんだ北水同窓も少なくありませんでした。飲み会でも常に話の中心にいて、大騒ぎをし、人を引き付け、場を盛り上げ、一緒にいて楽しい人でした。

北水同窓会青森支部の行事には欠かさず出席し、2年前までは青森支部の幹事長を努めていました。平成22年5月に青森市で開催された第91回北水同窓会定期総会では、水産放浪歌の前口上を述べ、水産放浪歌を歌い、拍手を受けながら輪の中に戻っていく姿が今でも出席した皆さんの記憶に残っていることだろうと思います。

その早すぎる死去を悼むとともに、生前、高林さんと親交のあった方々にご報告いたします。

ここに謹んで故人のご冥福をお祈りいたします。合掌

食品工場・厨房内の自主検査のお手伝いをします。
HACCP・ISO導入指導及び検証・評価・改善指導
★食品の微生物検査　★施設類・道具・器具類の拭き取り検査
★食品・副資材・調理室内の微生物の除殺菌テスト　★食品の賞味期限の設定
★保存テストのデータ蓄積　★その他衛生指導、社員教育などのご相談をお受けします。
株式会社 キュー・アンド・シー
代表取締役 奥野 和弘 昭和42年製造　松原 伸二 昭和62年化学　久保 雅俊 平成12年資源　阿部いく子 平成17年資源
分析室 〒065-0026 札幌市東区北26条東22丁目6-7 TEL.011-786-8300 FAX.011-786-8266
URL http://www.qandc-lab.com/ E-mail haccp@qandc-lab.com

追悼寄稿

明治生まれの中村一雄(昭10ヨ)大先生逝く
－何かのご縁を感じさせる先生の軌跡－

小野里坦（昭37ゾ）

97歳というご高齢にありながら昨年の夏まで上高地の魚類調査に同行され、淡水魚研究一筋の中村博士が平成22年10月31日に享年98歳で逝かれました。

先生は長野県南安曇郡梓川村（現松本市）で明治45年にお生まれになり、松本中学から北海道大学水産専門部に進まれ、卒業後農林省の水産試験場助手－函館高等水産学校（水産学部の前身）淡水増殖学講座助教授（講座に属する七飯養魚実習施設の養殖池の整備に尽くされた）－農林省淡水区水産研究所部長（現養殖研究所）－信州大学教授と歴任され昭和53年に退官されました。その間一貫して淡水魚の増養殖研究に取り組まれ、昭和46年には農林大臣賞受賞、天皇陛下へのご進講も6回を数えました。退官後も大学の非常勤講師、国や県の河川委託調査や様々な委員会に携わる傍らつい最近まで幾つもの市民団体のご指導もされてきました。

実は、私も水産学部で学生時代淡水増殖学講座に席を置かせていただいた後、助手－七飯養魚実習施設の助教授（当時先生の整備された池を使わせていただいた）－養殖研究所部長（淡水研時代の先生の後輩何人かにご指導を頂きました）－そして信州大学教授と先生の歩まれた道を約30年遅れで辿らせていただいたのは何かの縁を感じます。信州大学時代、先生のお宅に伺っては研究結果の報告、研究の夢を訊いて頂きました。90というお歳にも関わらず何時も〝ふん、ふん〟それは面白いと気長に訊いて下さっていました。そのお優しい物静かなお人柄は誰しも認めるところです。虫や魚、山野草を育てるのが御趣味で先生の飼っておられた野生メダカが今もお宅の池を泳いでいます。

在りし日の中村先生（左）
この日の調査で梓川支流でホトケドジョウとスナヤツメを初めて発見

亡くなる前に先生はご自分で戒名をしたためておられました。それは「寂水院魚研博雄居士」でした。しかし、仏法では魚という文字は生臭いため使用できないとのことで、考え抜いた和尚さんは「龍門院博法雄潭居士」と書き改めました。我々凡人には先生の書かれた戒名が分かりやすかったため残念に思いましたが、和尚さんの説明を聴いて納得しました。「龍門」とは水の中に魚の集まる穴があり、そこに集まった魚はその穴に吸い込まれて天まで吹き上がるとの故事に因む、そして「法」は水が去る、すなわち流れを意味し「潭」は水が深くよどむ所、すなわち淵を意味しているとのことでした。意味を知れば知るほど中村先生に相応しい戒名と思えるようになりました。

淡水魚の保護にご尽力された先生はさぞかしたくさんの魚たちに囲まれながら、龍門を通って天に召されて行ったものと思います。御冥福をお祈り致します。

合掌

ご遺族　中村まゆみ（奥様）、久美子（お嬢様）
390-0873 長野県松本市丸の内9-29

辻田時美先生逝去される
－北大での教え子を代表して－

小城春雄（昭44ゾ）

辻田先生が神奈川県藤沢市の介護施設にて、2010年12月13日の午後、97才で逝去されたとの報に接した。その日の朝食は普通に召し上がったので、その日も通常の一日となるはずであったが、昼食時に担当の者がお部屋に食事を届けに訪れた時にはすでに昇天された後であった。御家族だけによる密葬が執り行われ、御供花、香典、御供物等は硬く固辞したい旨お嬢様方より依頼を受けた。先生が亡くなる3年前より、御家族から介護施設に入ったので年賀状、御歳暮、御中元等は一切固辞したいという連絡を受け、皆で心配していた。もう一度、皆でお会いしたいと強く希望していたのだが、叶わなかった。

先生が93才の平成18年3月に教え子が藤沢に集まり歓談したのが我々との最後の出会いとなった。辻田先生の経歴や業績は北大水産学部百周年記念誌に紹介しました。

人の生には初めがあり終わりがあるとは誰でも知っている。宇宙の果ては120億光年の彼方までしか明らかとなっていない。ミクロの世界も素粒子まで達したが、まださらに極小の世界があるらしい。人間は無限大と無限小の間に漂っているだけ。生と死は別のことではなく如何も循環しているらしい。先生を失った悲しみは深いが我々に課された課題は大きい。先生の御魂のしずもりいまさんのことを願い以下の詩を捧げます。

夢たをやかな密咒を誦すてふ、蕃神（かみ）のやうな黄老がさった　「秋」のことく「幸福」のことく「来し方」のことく（日夏耿之助詩集より）。

佐藤 修先生(名誉会員)の急逝を悼む

平石智徳（昭51ギ）

平成23年1月7日、元北海道大学水産学部長 佐藤修先生は脳梗塞のため85歳の生涯を終えられました。

1月5日午前8時頃ご自宅で突然倒れられ病院に入院され脳梗塞と診断されました。入院後意識がしっかりしており、食事も会話もできる状態でしたが、翌6日早朝ご容態が急変し、7日午後6時30分に逝去されました。1月22日、函館市五島軒において「佐藤 修先生とお別れする会」が開催されました。会には、遠くは韓国釜慶大学校 李珠熙教授や台湾海洋大学 謝寛永副教授のほか国内の大学や各界の教え子を始め、先生の幅広い交友関係を示すかのように多くの人々が参列し、先生との別れを惜しみました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、大正14年6月11日愛知県安城市にて出生、長野県立須坂中学校（旧制）から、先生によれば旧制北大予科の校章である桜と星に憧れて北海道を目指したそうです。昭和23年3月北海道大学理学部を卒業後、同年理学部副手に採用され、昭和28年4月水産学部講師として当時の漁具物理学講座（後の漁具設計学講座）に招かれました。当時の先生の写真が講座に残っておりますが、登山用のヤッケに腰には伝説の荒縄ならぬロープを巻き付けた屈強な、まさに「せいばん」というのがふさわしいものです。因みになぜ「せいばん」と呼ばれるようになったのですかと講座の学生がお聞きしたところ、「学生時代に劇をやってなぁ」と教えて頂いたとのことでした。

先生は人工魚礁に関する研究で、構造力学的および流体力学的実験と理論的解析を行い、日本を始め世界における人工魚礁による漁場造成事業を推進するために主導的な役割を演じ、その基本的な考え方は高く評価されています。また、日本の沿岸域における魚類養殖、ホタテガイ養殖、コンブ養殖などの基盤作りに多大な貢献をされました。以来、漁具物理学の研究を進められるとともに数多くの研究者や教育者、技術者を育てられました。

昭和49年4月に水産学部教授、昭和60年から水産学部長及び大学院水産学研究科長を歴任され、平成元年3月に退官された後も、北海道立工業技術センター長に就任され、道南地域の技術の向上と人材の育成に努められました。平成9年3月に工業技術センター長を辞されてからも、保育園の理事長や多くの社会活動を続けられ、最後まで地域の発展にも尽くされました。

函館市の教育および文化の向上、人材の育成に大きく貢献したことから、平成元年11月には函館市文化賞（自然科学）を受賞されました。平成15年4月には長年にわたる教育・研究等への功績により、勲二等瑞宝章を受章されました。

教授時代の先生は、よく放任教育と言っておられましたが、午後3時のお茶の時間に助教授の梨本先生、助手の山本先生、院生や学生が集まり、いろいろな話や議論をされる中で、学生に対しそれとなく考える力を養われていたんだなと思い出しております。

佐藤先生の急逝が今でも信じられません。先生の教えに感謝し、ここに謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

寄稿

九十翁のセレナーで「男の一生」

島崎清康（昭17ギ）

—人生はケ・セラ・セラ—
◇昭17漁　島崎清康
◇「知床旅情」のメロディーで
　歌っています
◇20−9−10　90才記

オ〜イ　オ〜イ！　達者かァ
　おれは90になったゼー
　　同期の悪友共元気をだせッ声が小さいゾ
　　♪　星の姿にあこがれで…♭

一　ソロソロと歩みし　時には速歩
　　何時の間にか九十　もはや陽は沈む
　何か忘れた　よ　な気がするよ
　何を忘れたの…
　…それもわすれた　それも忘れた

セリフ
　　Boys be Ambitious！
　　（若者よ！大志を抱け!!）

二　夢多き若き日　大空を飛び舞い
　　青い海を駈ける　スポーツに汗して
　たのしい恋もし　あれは夢かよ
　　それも忘れたよ　アルツハイマーか
　　悲しィアルツハイマかよ

三　アレコレと迷いし　まよいつつ辿る
　　たどりたどる先に　平和と自由
　高き理想　あこがれの星
　　永久に輝けよ　永久に輝け
　　とわにかがやく

四　善悪悩みも　月日が過ぎれば
　　はるかはるか彼方　思い出の心
　人間万事塞翁が馬
　　禍福は糾える　縄の如し
　　あーあー人の歴史

五　ハテサテ生まれし　吾はヒトDNA
　　なぜになぜにヒトか　知るは神のみぞ
　享けし生命を生き切ったぞよ
　　めぐり会えた貴方うれしすてきよ
　　好きよ美しィ
《メロディだけくりかえし》
　おもえば人生はなるようになるよ
　　お！ け・セラ・セラ・セラー
《　　〃　　》
　余生はオカリーな囲碁とたわむる
　　しあわせの星
《　　〃　　》

　きらめく星座のどこかで会おうネ
　　ふたたび「あいましょうネ
　　ありがとう　アリガトウ
　　さようなら
　　サヨナラー　ウ・ウ・ウ…」
《メロディーは元に戻る》

　あらた「日ノ出」よ　風はソヨソヨ
《メロディーは元に戻る》
　花はサヤサヤと　小鳥さえずる
チュ・チュ‥チュ…チュ…　さわやか　さわやか！
　　「ルン・ルン！
　　ルン・ルン！」
「　」は尻上がりにうたう。

北晨寮

田中正晴（昭25遠ギ）

親潮前号（295号）を読み、北晨寮が大改修され、女子寮も外国人用のゲストハウス「おしょろ」もあると写真入りで紹介され、素晴らしい設備に感服して、私が入寮した時代のことを急に思い出しました。

◎入寮（南寮2号室）昭和22年春

広島を出発して上野駅で乗り換え、3日3晩かけてやっとたどり着いた青森駅では、進駐軍の検問とDDTの洗礼（ノミ、シラミ等の殺虫剤）を頭から、背中、ベルトを緩めて腹から撒布され、女も子供も、みんな真っ白になって青森駅の長いプラットフォームを重たい荷物を持って走り、やっと青函連絡船に飛び乗り、浮遊機雷の間を縫って夜明けの汽笛とともに函館にたどり着いた。「はるばる来たぜ函館え」大きく背伸びをして叫んだ。

ずーっと後に、昭和40年になって北島三郎の歌の題名になった。私が元祖。函館駅から市電で亀田まで。そこから雪解けの泥んこ道を七重浜まで…。

重たい荷物を背負って…ヌルヌルテクテク。
高桑三郎、山形県出身、（昭25遠ギ）
逸見久孝、大分県出身、（昭25遠ギ）
木村　貢、広島県出身、（昭25教ギ）
上村　昭、東京出身、（昭25漁労）
田中正晴、広島市出身、（昭25遠ギ）原爆被爆者、
の5人部屋。初めて会う少年、将来を契り、今でも堅い絆で結ばれているツーカーの仲。

◎アルルの女

入寮してまだ何も判らぬ5日目、新入生の歓迎の寮祭が2日後に開催されることが判った。急遽新入生も答礼として何かやることになり、初めて会う永沼という人が、テキパキと采配を揮って「アルルの女」という歌劇をやるから、お前はアルルの女、お前は農場の長男フエデリコの役、お前は農園の女主人ローザーの役、羊飼い、村人だと、あっという間に決めて、筋書きは、せりふは、音楽はこうだと短時間で纏めあげるとメガホンを持った。永沼さんはえらく切れる先輩だと思っていたら、私たちと同じ1年生（遠ギ）と判って彼の非凡さに驚いた。

永沼はその後もずーっと我われの指導者だ。

私はアルルの女に指名されたので、寮の食堂の中島料理長の娘、愛子さんのスカートやネッカチーフと化粧道具を借り、靴下を胸に押し込んで乳房をつくり口紅をさして女に化けた。妖しい気持ち…。

アルルの女の音楽は軽快なリズムで名曲である。その劇のセリフの中で、私のトッサのアドリブで「私は高水生が大好きだわー」を入れたため、大喝采となり、劇は大成功、当分の間語り草となって、永沼君のお陰で、私は有名人となった。

また、水産学を学ぶために入学したのに、有名なフランス文学をしょっぱなに学んだ。

後年…。私の住む町に「アルルの女」の公演が来た。私がその予約券を購入したとき、妻が「お父さんみたいな堅物が…何で…」と不思議がった。

その公演を見、オーケストラの音楽を聴いて忽然とあの青春時代が甦り、涙溢れた。
ランランラン、ララララン…。軽快な音楽、今も口ずさんでいる。

◎ダンスホール（進駐軍の置き土産）

南寮の続きの建物。玄関入口に大きなトドが居座っている新しい建物があり、その奥から妙なる音楽が聞こえ、好奇心から覗いてみると、ダンスホールではないか。女性がいるではないか。私はすぐ入会した。過去に発行された「親潮」を読むと村上敏雄さん（昭23遠ギ）、渡辺正春さん（昭23遠ギ）などダンスを愛好され、また、今野宗郎さん（昭24遠ギ）、弘中虎雄さん（昭24遠ギ）のお顔を見た記憶があります。遠洋漁業にでて、外国の日本領事館などダンスパーティに招待されたときの教養のためと言うふれこみでワルツやタンゴを習い、後年このダンスのお陰で糖尿、高血圧を克服して健康になりました。

◎クローバー

寮の食事は主にスイトンで、食料難のおり量も少なく空腹の連続でした。近所の農家からジャガイモ、ま

寄稿

さかりカボチャを買ってきて要領よく補食する先輩も散見されましたが、私たちには金もなく知恵もなく、イカツケのバイトにいくと金になると聞いてはいたが、海が何日も荒れて途方にくれていたとき、寮の窓から見るとポプラの木につながれている牛が美味そうにクローバーを食んでいるのが見えてヒラメいた。クローバーをバケツに一杯刈り取り、飯ごうで味噌汁にして意気揚々と食べた。みんなペット吐き出した。16 歳の幼稚な少年、炊事もしたことのない末経験、灰汁ヌキなんて知るはずもない。苦い思い出。

◎イカツケ（烏賊釣り）バイト

函館沖はスルメ烏賊の大漁場。今でも有名。その烏賊を追ってマグロが集う。当時、北海道では鮭は河にあふれ、ニシンは肥料にするほど獲れた。函館沖は集魚灯で海は昼のように輝き、徹夜で烏賊を釣るバイトで１匹釣ると２円。そのうち１円がバイト料。天候、潮次第だが、調子が良いと一晩で 500 円～1000円にもなることがあり、当時の金では大金であった。

烏賊の墨で顔を真っ黒にして夜明けに帰ってきても、ちゃんと授業には出席した。寮の或る部屋でにぎやかに宴会が始まると、烏賊つけ成金とすぐ判った。

寮の近くの有川桟橋改修工事のトロッコ押しのバイトもあったが、えらくきついし 10 円にもならず、やたらと腹が減った。いずれにしても、みんな生きるに懸命だった。

◎七重浜の銭湯

寮の暖房はダルマストーブで石炭を焚いた。入学時石炭は豊富だったのに、秋、寒さが増すころ節約命令がでて、風呂が週２回になった。寒くて寝れず、烏賊つけの墨も洗えず銭湯に行くことになった。初めての経験。ある夜、財布を忘れて番台の前でモタモタしていたら、番台のおばさんが「学生さん、いいさお入り、顔を覚えているから…。次にもってきて」異郷で優しくされて涙が出そうになった。その日の湯は心も体も良く温もった。もちろん次のときに忘れずに払った。それがきっかけで金欠病のときは、「次に持ってきますから」と顔パスになった。烏賊つけで金が入ると 1 番先に精算した。いい人情である。そのことを学校で皆に話すと「何だ、喫茶店でも、市場でも、高水の帽子をかぶっていたら貸してくれるよ」それほど高水生は函館市民から愛され信用されていたのだと、今でもありがたく思う。函館は、わが母校は死ぬまでに、もう一度訪れたい思い出深い別世界である。

地域の活性化のために全身全霊の情熱で取り組みます。
NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD
株式会社 中山薬品商会
代表取締役　中　山　一　郎
本　　社　〒040-0075　函館市万代町 20 番 10 号
PHONE（0138）40-6275・FAX40-3939
釧路営業所　〒084-0903　釧路市昭和町２丁目 15 番地３
PHONE（0154）52-4101・FAX52-4103
http://hakonaka.jp

北海道大学寮歌祭

山本洋一（平2ギ）

平成22年10月30日、北海道大学寮歌祭の開始を告げる和太鼓の音が、大田区産業プラザに響き渡りました。この寮歌祭は、「北大の寮歌を楽しく歌おう」という目的の下、8年前に有志が集まって以来、毎年開催しているものです。

この寮歌祭を支える実行委員は約20人。その中に数人いる水産学部出身者の中では、「今年は鵜沼さん（元水産学部医務室勤務）と取り巻きが2年ぶりに乗り込んでくるらしいぞ（笑）」と話題になっていました。その結末は…

10月29日、岩内町役場の坂本慎一さん（昭58食）、鵜沼さんと函館から飛行機移動し、東京入りしました。元々、鵜沼さんのエスコート係は岩内の表芳弘さん（昭52ギ）が取り仕切っており、今年は表さんのご子息の結婚が合間って、私山本に白羽の矢が立ちました。奇しくも10月30日は東京に台風が直撃となり、翌31日での帰りの便も危ぶまれましたが、帰りも無事に鵜沼さんを送る事ができました。

本題に入りますが、北大寮歌祭は第9回を数え、旧制高等学校の全体寮歌祭が幕を閉じようとしている昨今、異彩を放っているイベントではあります。実際、寮歌を知らない、寮歌を良く知っている世代とは合わない北大OB及びOG諸氏にはちょっと敷居の高いものかも知れないと私自身も正直思っていました。

私はおよそ20年前に北水応援団に所属していました。函館を離れて17年、平成20年に函館に戻って来た私にとって寮歌はかつての青春を取り戻す良い機会でした。特に水産放浪歌で登壇した人数は…総勢40名はいたでしょうか。水産OB/OGは最大派閥の如くステージ狭しと集い、放浪歌が轟きました。

現役の北大応援団・応援吹奏団に加え、北水応援団のステージもあり、盛り上がりました。最後は全員で肩を組み、都ぞ弥生を歌ってお開きとなりました。

今年の参加者は約180名だったことから、放浪歌で登壇した人は全体の20%超になります。御年古希を迎えられた鵜沼さんパワーが寄与したかどうかは定かではありませんが、例年以上に盛り上がり、会場を熱くさせたことは間違いありません。

その後、有名な餃子屋である「ニイハオ」へと場を移した二次会でも水産学部OB/OGが筆頭団体だったことは言うまでもありません。二次会には50名程度しか参加しないだろう、と踏んでいた実行委員会の期待を大きく裏切り、80名を超えてしまったことは嬉しい誤算となりました。

来年の第10回北大寮歌祭は、2011年10月8日に同所で開催します。後期高齢者から若造まで、いや「北大に入学したい子供の親」が間違えて来てしまうくらい気軽な祭で、肩組み楽しく寮歌を歌うのも一興かと。

（北大寮歌祭Web: http://www.ryoukasai.org/）

“友よ兄等よ何時また会わん”

函館からの切込隊長
山本洋一（平2ギ）
北大寮歌祭実行委員
犬飼　孔（平8ギ）

臥牛会の閉幕を迎えて

長澤正徳（昭24セ）

平成22年10月19・20日の両日にかけ我々臥牛会の総会が函館の奥座敷である湯の川「一乃松温泉旅館」で開催されました。

規則正しく2年に1度の集会は20数回、40年以上の長期に及ぶにつれ会員間でも親しまれ、すっかり年中行事の一つとなった感が致しました。

しかし回を重ねるごとに高齢化による体力・気力の衰えは如何とも致しがたく、物故会員が半数を占め、また現会員の約半数が闘病中であることを考慮すると、これからの臥牛会の在り方を真摯に考慮しなくてはならない時期の到来と考えざるを得なくなりました。

かかる諸問題を抱えて総会が午後5時より始まり、意見百出真摯な議論が交わされたがこの会をもち閉会解散することに決議された。

これに伴い永年にわたり会に貢献した故宮崎会長・長沢副会長に対し記念品贈呈することも決議された。

総会終了後は全員オスマシ顔になって記念撮影、懇親会に突入する。

菊田君の名司会で出席奥方連中も皆顔馴染み、気のあう連中ばかりで得意のカラオケで旅の恥じはかき捨てとばかりに唄と踊りが交錯する。

宴半ばにして一番遠方（三重津市）から出席の新井義昭君の土産、伊勢栗和生の銘菓が配られ勘定高い奥方連中マタマタ大喜び!! 懇親会は最高潮！

翌20日は朝食を済ませ旅館出発、襟を正して母校水産学部を訪問する。

工藤秀明先生、大変ご多忙の中を私共のため構内案内に先導下される。感謝。

昭和24年3月卒業証書を戴いた古い講堂がそのまま残っており、壇上で感無量。さらに工藤先生には講堂前で全員の記念写真まで撮って戴き本当に有難うございました。お陰様で最後の臥牛会にふさわしい行程となり感謝いたします。

母校を後にして新装なった五稜郭公園内の史蹟箱館奉行所へ向かう。到着して平日にも不拘見学者の多さに驚く、また27億の巨額建設費を掛けただけに立派級、一見の価値有ると思う、12時奉行所を後にした。

予定時刻函館駅到着、残念ながらこれからは二年毎の決まった臥牛会の出会いは無くなるものの、お互いに健康であれば再会可能であると心に誓って手をいつまでも堅く握り合い別れを惜しんだ。

最後に毎回、会の運営に協力して下された会員諸氏、幹事諸氏の皆さんに心から厚くお礼を申しあげ最後の報告と致します。

後列　菊田　薫、日野輝夫、新井義昭、瀬川二夫
　　石井　昭、大川昭三、井原　肇、直江光昭
中列　佐藤　裕、真壁賢治、荒木道雄、高橋　大
　　野畑順二、志田夫人、志田仁男、市川　勲
前列　長沢正徳、大川夫人、荒木夫人、長沢夫人
　　高橋夫人、田畑夫人、田畑　収

北水35年卒 同期会

平野亮一（昭35セ）

―卒業50年記念―　開催結果の報告
平成22年9月30日（水）午後6時
札幌ジャスマックホテル　出席35名
幹事　山田　稔　岡部隆義　吉崎　勲　下村軍治
　　松村敏夫　平野亮一

1. はじめに

今年は卒業50年の記念すべき年、同期会も最後になるだろうと言う事で、札幌の幹事が企画した。案内をしたところ、卒業128名、物故者21名、連絡取れない人も多く居るなかで、35名の多くの友が出席してくれました。身体の調子が悪く、出席したいが出来ない人からの無念の連絡も頂き、彼らの心もしっかり受け止め、盛大に、そして賑やかに、飲み、語り旧交を温めました。　以下、あらましを報告します。

2. 受付　午後4時からの受付は、吉崎、下村の両君で、みんなの到着を歓迎した。

3. 記念写真撮影　5時45分　やはり70歳を越えると、動きが悪く集合に苦労した。

総合司会　　岡部隆義君の総合司会で午後6時、卒業50年記念同期会が始まりました。

4. 黙とう

128名の仲間が卒業し、この半世紀の間に、今年の鈴木潤一郎君、石川享市君を含め21名の同期の友が旅立ちました。心半ばにしてこの世を去られた仲間の、ご冥福を祈り、一同で黙祷を捧げました。

5. 幹事代表　挨拶

開会に当たり幹事代表として山田 稔君が挨拶をしました。

同期の仲間の明るい話題に始まり、体調不良の中、医師に許可を貰い熱い想いで出席した松下、堀田君のこと、先日、逝去した石川享市君のことなど仲間の近況などを織り込み、実に温かい、彼らしい心のこもった、素晴らしい挨拶でした。

6. 宴会

乾杯は遠方からの出席者の中から、若杉君が「元気で仲間と会えたことを噛みしめ幹事の苦労に感謝して、飲み且つ語ろう」との音頭で宴会が始まりました。

それぞれが昔に帰り、楽しく語り、飲み、和やかな時間を持ちました。やはり歳相応なのか、酒の量がめっきり減った者、しかし、反面「まだまだ若い者には、負けないぞ」とばかりに酒豪健在の者、多種多才で良い雰囲気でした。

7. 近況報告

未だ現役で、北海道の経済界で活躍し全国的にも高く評価されている、また北水全国同窓会会長でもある横山 清君が口火を切り、出席者全員が近況報告をしました。

健康のこと、病気のこと、学校時代の思い出話、趣味のこと、ゴルフの楽しさのこと等、そして、何よりも北大水産を卒業した事により今日がある、その誇りが支えであると、大変活発な近況報告でした。

その中で、杉本君が「10時間余にも及ぶ内臓の手術を二日間連続で受け、内臓のほとんどを失った。その結果、見事に生還した、元気になったので出席した」との話には感動しました。そうだ寿命とは寿の命だ。健康を害している仲間も大丈夫だ、希望を持ってガンバロウ。それを教えて貰いました。嬉しいね。

人生100歳の時代です。みんな元気に、前を向いて挑戦する若い老人になりたいものですね。出席したくても出来なかった、横山文男、小祝良介、瀬戸山幸男君など多くの同期の仲間の健勝を心から祈ります。

8.「逍遙歌」、「都ぞ弥生」の全員での斉唱

小生平野の前口上「流星落ちて棲むところ鈴蘭の香の匂う今日……」の音頭で「逍遙歌」を歌い。横山清君の「明治45年度寮歌……」の音頭で「都ぞ弥生」を一同で、元気よく、若々しく高らかに歌い、歳を忘れ溌剌としていました。やはり母校を思う熱き想いは強いものがありました。「やっぱりみんなで歌う寮歌は最高だね」。

9. 閉会挨拶

幹事の中から、松村敏夫君が「挨拶は短いのが良しとする。楽しいひと時だった。ご苦労さん」と簡潔なる閉会の名挨拶で、一次会を締めました。

10. 二次会、カラオケ

ほとんどの人が、一次会に引き続き、二次会まで残り、飲み続け、熱く語り合い、昔を、そして今を噛みしめていました。良い時間でした。

特に、吉崎 勲君の計らいで、カラオケが進み、各自、自慢ののどを披露してくれました。演歌、ポップス、民謡、懐かしの歌等々、賑やかで楽しかったです。良い声でした。

午後11時、谷口滋穂君の一本締めで、二次会を終わりとしました。最高の同期会でした。

11. 記念ゴルフコンペ

9月30日（木）広済堂札幌カントリー

10月01日（金）札幌茨戸カントリーの名門2コースで、秋晴れ快晴の中、二日間連続でゴルフコンペを開催しました。それぞれの、日頃の腕、技、経験、歳の巧などを充分に発揮し、実に楽しい二日間でした。同じ趣味を持つことの素晴らしさと楽しさを分かち合い、グリーンの芝生の上で5時間以上も交流を温めゴルフを満喫しました。

「同期会は卒業50年で一区切りでも、ゴルフでまた集まりたいものだ」との声が出、今回出場しなかった諸兄も参加してくれれば、是非、実現したいものです。

出場者　谷口滋穂、小長谷善高、伊東尚彦、
佐々木健、津田和成、古川原仁、若杉　康、
土田健治、松村敏夫、大浦久司、山田　稔、
岡部隆義、平野亮一　以上13名

第一日目　主な成績

		グロス	HC	ネット
優勝	岡　部	85	13.2	71.8
二位	小長谷	101	25.2	75.8
三位	土　田	98	21.6	76.4
四位	佐々木	89	12.0	77.0
五位	平　野	88	10.8	77.2

第二日目　主な成績

		グロス	HC	ネット
優勝	平　野	78	4.8	73.2
二位	山　田	95	21.6	73.4
三位	岡　部	85	9.6	75.4
四位	谷　口	103	26.4	76.6
五位	佐々木	91	13.2	77.8

12. おわりに

北大水産学部は北大の中でもユニークな人材、幅の広い人間の集団だった。特に我々の時代は際立っていた。だから社会に出ても、それぞれの分野で活躍し、成功し、精一杯生き抜いてきた。そして今日があるのだ。

その原点はやはり、北大水産学部を卒業したことにある。その大学に感謝、素晴らしい仲間に感謝、大いなる誇りを持っている。みんながだ。

同期の仲間が元気で百歳を目標に人生を送ることを、心から祈念します。

「乱筆、乱文。拙く申し訳なし。許されよ。平野 記」

13. 同期会に出席した仲間達

木村武久・小長谷善高・松村敏夫　（以上ギ）
伊東尚彦・鈴木　昂・谷口滋穂・津田和成
成田信之・細萱安彦・横山　清　（以上エ）
東　幹也・大浦久司・大久保慶一・熊川　健
坂元輝行・佐々木健・堀田敬三・杉本政禧
鹿討治雄・鈴木　譲・林　淳一・平野亮一
山田　稔・若杉　康・松下松雄　（以上セ）
粟津健太郎・梅田芳昭・大森　信・岡部隆義
下村軍治・土田健治・成田宏一・古川原仁
吉崎　勲・横山久子　（以上ゾ）　35名

昭和37年卒業 第9回同期会・青森

菅野溥記（昭37ゾ）

昭和37年卒の第9回同期会は、平成22年9月5日、青森市の浅虫温泉「海扇閣」で開催されました。

2年に1度の同期会は、札幌市、函館市に続き、青函連絡船の地、青森市での開催となり、秋葉君（ギ）、又井君（ギ）、福士君（セ）と私の4人が幹事役となりました。同温泉・秀峯の間での再会をよろこび合いました。

「ようこそ青森へ！」との又井君の開会宣言のあと23名の友人に黙祷を捧げ、故人の冥福を祈りました。

続いて幹事代表の菅野より歓迎の挨拶、兵庫県三木市から車でやってきた吉野君（ゾ）の乾杯で宴会に入りました。

今回参加できず、返信に近況をよせてくれた46名のひとこともなつかしくも、夫婦どちらかの体調不良の便りもあり、体調の回復を祈っています。

続いて今回参加した31名から近況報告があり、同伴で参加した夫人からの報告もありました。古希を過ぎて、家庭菜園、ボランティア、孫のはなし、健康づくり、中にはまだ現役として活躍している話題等さまざまでした。今回は秋葉君（ギ）、三好君（エ）、丸山君（ゾ）の3名が夫人同伴で参加しました。これも健康であるから出来ることと思います。差入れした地酒等と料理で宴が盛りあがった頃、円陣を組み、小島君（セ）の前口上で、“都ぞ弥生”“逍遙歌”の寮歌を斉唱し、若き青春時代に思いをはせました。

最後に卒業後50年、第10回の記念すべき同期会を札幌市で開くこととし、澤井君（エ）より挨拶があり、平野君（エ）より締めの乾杯があり、盛会のなか旧交を温めることが出来ました。このあと、2次会、3次会へと席を移し、夜がふけるのも忘れて語り合いました。

翌日は、青函連絡船・八甲田丸、青森駅、三内丸山遺跡までお送りして別れました。

今回、異常気象ともいえる猛暑の中での開催でしたが、全国から34名という多数の参加を得、会を滞りなく無事終えることが出来ました。ここに幹事一同感謝申し上げます。

青森市は本年12月4日には東北新幹線全線開業を迎えます。大変便利になりますので、同期の皆様には、また青森へお越しください。お待ちしております。

五列目　ギ 大山、ゾ 小関、エ 五十嵐、セ 秀里、
セ 中田、ゾ 河村、セ 小島、ゾ 菅
四列目　セ 福士、エ 平野、エ 澤井、ゾ 中村、
ギ 又井、ギ 三浦、セ 鎌田、エ 泉
三列目　ゾ 菅野、ゾ 小野里、ゾ 吉野、ギ 田坂、
ギ 大割、ゾ 平本、セ 阿部
二列目　ギ 秋葉、ゾ 田中、ゾ 古井、ゾ 麦谷、
セ 絵面、ギ 馬目
前列　秋葉夫人、丸山夫人、ゾ 丸山、エ 三好、
三好夫人

北ビー（38−42）会 開催近況

幹事会

1. 朝里川温泉にて

今年10月3〜4日、第7回目の北ビー会を小樽朝里川温泉「武蔵亭」で開催。

当日は奇しくも武蔵亭のオーナー（奥様が支配人）と云われており、元北海道副知事、北水昭和38年増殖卒真田氏のご葬儀の日であった。当時ラグビー部顧問鈴木恒由先生も今年7月にご逝去され、メンバーも何か寂しくもあり、感慨深いものを感じ入っていたものと思う。

宴会は広間で、ワイワイ、ガヤガヤの飲み合いと話合いは尽きなかったが、前記両故人へご冥福の祈りを含めて北大寮歌と水産放浪歌を歌い、幹事の一人である森氏の朗々たる詩吟で締めた。

二次会は、幹事部屋に集まり、やや広い部屋ながら身を寄せ合った狭さの中でまたもやワイワイ、ガヤガヤの飲み合いと話合いであった。

終盤には、身につまされる病気の内容と何が健康に良いかなどの健康の話に集中した感があった。

目だった酩酊者は1～2名ぐらいで、温泉の湯も良く、癒された楽しい一夜が過ぎた。

翌日、それぞれに朝食を済ませて自由解散となった。

2. 北ビー（38－42）会について

北ビー（38～42）会とは、昭和38～42年卒北水ラグビー部員の集まる会である。

平成16年から年に一回、温泉地を中心に、都度場所を変えて集まっている。

現在の会員数は38名、毎年15～24名の参加人員で、今年7回目が24名と一番多かった。

メンバーは、もはや65～71才で、現役人もいるが多くは自由人である。

今は、昔の青年時代とは大きく違い、それぞれにそれなりのしわが増え、頭も体も変化している。

しかし、宴会では、昔ながらの闘志溢れるラガーマンの心になっている。

そこには、昔の校舎があり、北晨寮があり、泥にまみれたグランドがある。そして、イカ干しの海の匂いする海岸がある。試合後のラーメン屋や試合に負けた後のスナックの幻影が残っている。

唯、正確に覚えている者は少なく、うろ覚え（？）の会話に花が咲いているのが酒の席らしく愉快である。

名誉会長は38年卒のキャプテン花村氏であり、会長は39年卒のキャプテン大谷氏である。幹事は、一応年代別に1～2名で構成されている。

昭和41年頃の北水ラグビーが一番強かったと云っている。が、公的には概して試合には弱かった感じが強い。クラブ活動の良さは、強さだけでないところが今、北ビー会として続いているものと実感する。

現在の北水は、ラグビー部員が5, 6人しかいないとか。

今は野球、サッカー人気の時代である。ラグビーは、クラブ活動の中では、企業でも若者に嫌われている3K（汚い、きつい、危険）職場に近いのだろう。

ラグビー精神である「One For All, All For One」（一人は皆のために、皆は一人のために）は、今でも高邁な精神なはずだが…。

＊写真の氏名

最後列　中野、森、伊勢、今井、川崎、増田、石黒（祥）、中村、向田

中列　石黒（晋）、米田、大橋、三栗、東海林、天下井、坂本

前二列目　佐藤、小林

最前列　杉本、大谷、花村、原田、武部、村木

北水同窓会京滋支部総会の報告

小林正昌（昭39ゾ）

平成22年11月5日

秋たけなわの時期とは言え、山々の紅葉は夏の猛暑の影響か3週間程の遅れとか。

平成22年10月30日に京都の京阪ホテルにて京滋支部総会を開催いたしました。

記

＊日時、場所　平成22年10月30日（土）17時30分より、レストラン「オーク」にて

＊出席者　11名（敬称略）

三輪　二郎（昭30エ）　目方　徳二（昭33ゾ）
山田　昌次（昭36エ）　吉田　宣雄（昭38ギ）
今野　栄一（昭39ギ）　小林　正昌（昭39ゾ）
若林　博（昭54ゾ）　高木　正夫（昭62ギ）
大嵜　良孝（平元食）　星川俊一郎（平8ギ）
竹上健太郎（平16海生）

＊議事　☆21年度　一般経過報告

☆21年度　会計報告　監査報告
高木監査役（昭61ギ）より監査報告があり承認されました。

☆22年度　事業計画（案）予算（案）共に承認されました。

☆23年度　役員、幹事改選の件
全員留任と決定

支部長　小林　正昌（昭39ゾ）
幹　事（滋賀地区）　澤田　宣雄（昭60院）
幹　事（宮津地区）　高木　正夫（昭62ギ）

☆その他

“トピックニュース”

鈴木章名誉教授がノーベル化学賞受賞に決定されました。

又、スポーツでは全国大学野球大会でベスト8強に進出。

北大として歴史に残る輝かしい年であり、同窓として大変名誉なことです。

＊懇親会　三輪先輩（昭30エ）の乾杯の音頭に始まり、暫しの歓談と親睦をふかめ、「都ぞ弥生」、「逍遙歌」、「放浪歌」を大合唱し、来年も元気での再会を誓い散会しました。

以上

平成22年度北水同窓会大阪府支部総会・講演会・懇親会報告

入江和彦（昭45ギ）

9月25日午後3時から中之島センタービル31階うおまん・トップラウンジにて、2年に一回の総会・講演会・懇親会が約4時間半にわたって行われました。出席者は、来賓12名、講演者1名、支部同窓生44名（昭和卒27名、平成卒17名）と、総計で57名の多くの出席をいただきました。北水同窓会から来賓として、大学院水産科学研究院教授 荒井克俊様　（昭51ゾ）に、出張中の忙しい合間を縫って出席いただき、大学の現状の説明とともに、支部活動の発展を期待していますとの祝辞をいただきました。また支部活動でご縁のある北海道大学関西同窓会会長・遠藤彰三様、北海道大学関西エルム会代表理事・日下大器様、札幌農学振興会関西支部理事長・和田武夫様、北海道大阪事務所長・杉中正人様の皆様にも来賓として祝辞をいただきました。

総会の事業報告・計画では、①月例会②支部ホームページ（HP）③札幌農学振興会関西支部との共催の食育フォーラム④有志による小旅行実施などが報告され、今後とも、継続発展させてゆくことが確認されました。現在、北水同窓会HPにリンクされている支部HPは、リニューアルを進めています。引続き、会計報告・役員改選が行われ、原案通り承認されました。特に役員改選では、新支部長に田中文夫氏（昭50食）が選任され、支部発展への氏の行動力が期待されています。

講演会では、前回の総会講演に引き続き、経済エコノミスト・ラジオ日経キャスターとして活躍されている金森 薫氏（昭50食）に、「今後の国内外経済情勢について」の演題で、円・ユーロ・ドルの今後の為替、日経平均動向や、第二のリーマンショックの可能性など、様々な資料を基に講演していただき、聴講者にとって大変有意義な講演となりました。

懇親会では、北大グッズなどを景品にした恒例のビンゴゲーム大会を行ない大いに盛り上がりました。2年に1回の同窓が合える最大の機会でもあり、あちこちで名刺交換、情報交換、歓談がにぎやかに行なわれました。最後の締めくくりとして、「水産放浪歌」「永遠の幸」「都ぞ弥生」「ストームの歌」を、参加者全員が肩を組み輪となって熱唱し、次回の再会を約し散会となりました。

※支部月例会・・大阪駅前第2ビル2階北大会館で第三土曜日17：00から開催、支部活動の打合せを兼ね

た飲み会で、どなたでも飛入り参加大歓迎（会費2,000円）です。

月例会の案内・報告をＥメールで行っています。まだ大阪近辺でアドレス未登録の皆様は、ぜひ登録をお願します。

支部アドレス　hokusui-osaka@mail.goo.ne.jp
までご連絡ください。

北水同窓生の参加者

藤井　明（昭36セ）　大野正浩（昭36セ）
徳永　徹（昭37セ）　福田義治（昭37セ）
大山　満（昭37ギ）　峰岸　裕（昭41セ）
入江和彦（昭45ギ）　浦谷義博（昭45化）
江島　新（昭46化）　富田　整（昭48化）
宮崎恒一（昭48化）　金森　薫（昭50食・講師）
田中文夫（昭50食）　中川武司（昭50ギ）
荒井克俊（昭51ゾ・来賓）　菊地卓嗣（昭51食）
北出　弘（昭52ギ）　中　進作（昭53化）
西本恵市（昭54ギ）　福間浩一（昭55ギ）
殿井鉄夫（昭55ゾ）　杉原　浩（昭55化）
佐々木雅人（昭56化）　大橋人司（昭56ギ）
小野高秀（昭57ギ）　楠山仁志（昭59ギ）
竹内　章（昭60化）　藤井英嘉（昭61ギ）
中田邦彦（昭61食）　吉田幸治（平1ギ）
松谷隆昭（平２ギ）　川邊一郎（平3ゾ）
吉村直孝（平３ゾ）　新瀬幾恵（平7ゾ）
堀越光晴（平８ギ）　久保田英之（平8ギ）
辻村浩隆（平10ゾ）　井上順之（平11海）
藤原匠逸（平13生）　尾上和則（平14資）
尾上律子（平14資）　中村拓真（平15シ）
佐野史和（平15海）　宇野陽子（平17生）
占部正悟（平17資）　桜井遥平（平19海）

第60期同期会の報告

三佐川 稔（昭45ギ）

10月29日、卒業40年42名が、札幌の奥座敷定山渓温泉に、遠くは大阪、名古屋など全国から集まって、第60期同期会が開催された。

懇親会は、柳平幹事の司会で始まり、これまで亡くなった同期12名の冥福を祈って黙祷を捧げた。

宴は、卒業以来の再会などもあり、思い出話しや、近況報告で盛り上がり、またたく間におひらきの時間となり、「都ぞ弥生」と「水産放浪歌」を全員でスクラムを組み、声高らかに歌い閉会となった。

引き続き、幹事の計らいで、そのまま二次会へとなり、酒量も増えるにつれ、オーバーヒート気味、寮歌、カンツォーネありで、夜が更けるまで歌声、笑い声、濁声・・・　が温泉境に響いていた。

同期会は、盛況のうちに閉会となったが、次回の開催場所は、「函館」という声が多かった。開催時期は、3年後、5年後、という声もあり、今後幹事が皆さんの意向を斟酌しながら調整していくこととなった。

次回の同期会にお互いに元気で再会を果たしたいと心から願いつつホテルを後にした。

終わりに今回、会の準備をしていただいた幹事の皆さんに感謝するとともに、北水の益々の発展と、同期皆さんのご健勝を心から祈って会の報告といたします。

前列左から（敬称略）
末松、斎藤、宮澤、村井、前川、古田、竹内、笠原、日置
2列目が同じく、大塚、落合、野島、高丸、天間、坂下、山本、三佐川、吉田（正）、入江、阿部
3列目が同じく、福田、高野、刑部、柄木田、上田、赤川、後藤、宇藤、田中、藤井
最後列が同じく、柳平、今泉、吉田（徹）、久保田、田村、森下、庄司、矢島、伊藤、平沖、大島、
以上41名　残念ながら、タッチの差で、岡崎君が写真に納まりませんでした。

北水同窓会広島県支部会開催の報告

羽原浩史（昭55化）

去る平成22年10月16日（土）、北水同窓会広島県支部会が広島駅ビル内の広島ライオンにて開催されました。

広島県在住の同窓は約40名ですが、高齢の方も増加し仕事上の都合などで8名の参加を得て、森岡 泰啓支部長（昭38ゾ）の開会挨拶の後、永井 達樹氏（昭48修ギ）によりこれまでの研究歴を映像に纏められた「遠洋から沿岸へ～一研究者の36年～」の講話がありました。

広島大学大学院教授の井関 和夫氏（昭46ゾ）の発声による乾杯で懇談会が始まり、初めての女性参加者でありました中山 奈津子氏（平15海）を皮切りに自己紹介や近況等の報告があり、今後の支部活動の方向などについても活発な意見交換が行われました。長谷川 洋幹事長（昭41セ）による総会とりまとめで一段落した後も久々の支部会開催の高揚感でお酒も相当すすみ、まさに賑やかな会となりました。

最後は、恵迪寮出身の長谷川幹事長の音頭で都ぞ弥生を高吟し、最年少参加者でもありました中山氏による締めで再会を約して解散しました。

［前列右より］
井関和夫（昭46ゾ）、森岡泰啓（昭38ゾ）、
永井達樹（昭48修ギ）
［後列右より］
羽原浩史（昭55化）、中山奈津子（平15海）、
村上倫哉（平7ゾ）、長谷川　洋（昭41セ）、
石田　実（昭57ゾ）

昭和60年化学科卒同期会

佐々木 秀典（昭60化）

去る、10月10日（日）午後６時より、函館市湯の川の「旅館一の松」において、昭和60年水産化学科卒の同期会が開催されました。学部を卒業後、四半世紀を経たこともあり、懐かしい面々と語り合いたいと思い、名簿作りから始め、同期会開催の連絡をしたところ、当日は９名の参加者が集いました。道外在住の友３名も遠方から参加して下さいました。

酒を酌み交わして、それぞれが近況報告を行いました。中には大病を患った方もいて、さすがに時の経過を感じた次第でした。会って語れば、見た目は齢を重ね変貌していましたが、一瞬にして大学時代にタイムスリップし、束の間大学生に戻って懐かしくも楽しい一時となりました。二次会は、「杉の子」で遅くまで皆と談笑しました。名残惜しかったのですが、最後に、５年以内にまた同窓会を開催することを約束して、解散しました。次回はもっと多くが参加する同窓会にしようということになりました。

翌日、数名がこの同窓会のメンバーでもある岸村准教授の研究室を訪問し、資源化学研究棟（旧実習工場）内を案内していただきました。母校の水産学部が益々発展していることがわかり、同窓生として大変に誇りに思いました。

北水同窓会函館支部 平成22年度　総会・懇親会

本間隆之（平元ギ）

平成22年7月23日（金）ホテル函館ロイヤルにて、支部会員64名の出席で平成22年度の北水同窓会函館支部の総会及び懇親会が開催されました。

志賀支部長（昭44ゾ）の挨拶と北水同窓会本部の飯田幹事長（昭51ギ）の挨拶の後、函館支部の今井幹事長（昭52ギ）の司会進行の下、平成21年度事業報告と決算報告及び平成22年度事業計画と予算，役員が承認されました。なお平成22年度に限り、秋の同窓会を開催しないことも併せて承認されました。

総会終了後、中道克夫氏（昭26ゾ）の乾杯の発声で懇親会が始まりました。

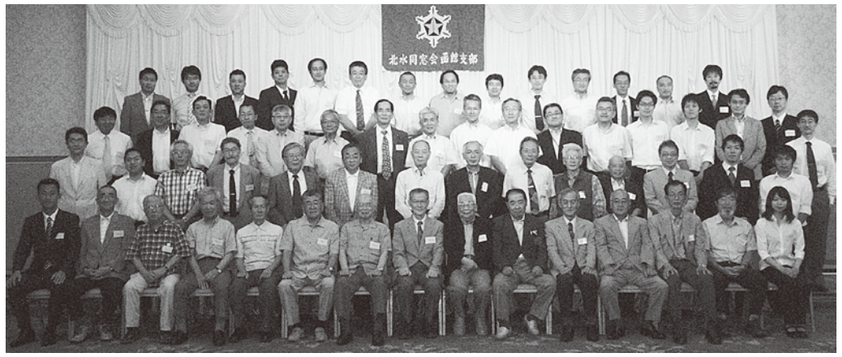
懇親会では現役学生によるステージとして、ほくすいブラスが登場し、４名の学生による演奏が行われました。自己紹介と曲の紹介を交えつつ「函館の女」、「Moonlight Serenade」、「都ぞ弥生」、「水産放浪歌」、「ロンドンデリーエアー」の順に演奏していただきました。諸先輩からの声援と拍手（と御酌）が加わり、大いに盛り上がりました。そしてアンコールのかけ声がかかり「笑点」が演奏されました。

演奏後、ほくすいブラスのメンバーにも宴に加わってもらい、先輩諸氏の歓迎を受けていました。

最後に岸元祐二氏（平15海）の発声の締めの乾杯の後、出席者全員での記念写真に続き，山本洋一氏（平2ギ）の前口上で「水産放浪歌」を全員で歌い，次年度の再会を約し散会となりました。

当日は水産学部からも8名の教員が出席してくださり、お膝元の函館支部に今まで以上に期待をかけてくださっていることを感じました。

木村　順治（昭26ギ）
伊藤　　一（昭29ギ）
岡川　　伸（昭29セ）
服部保次郎（昭31エ）
高野　和則（昭32ゾ）
山﨑　文雄（昭33ゾ）
齊藤　勝男（昭34ゾ）
澤崎　達孝（昭37ゾ）
早瀬　孝重（昭39エ）
米田国三郎（昭40エ）
志賀　直信（昭44ゾ）
三佐川　稔（昭45ギ）
高橋　　生（昭46ギ）
吉野　　威（昭49ギ）
佐々木俊雄（昭49ゾ）
中尾　博己（昭51ギ）
中道　克夫（昭26ゾ）
坂本　有隣（昭29エ）
若狭　哲郎（昭29セ）
羽田野六男（昭31セ）
島崎　健二（昭33エ）
菊地　英樹（昭34エ）
河村　章人（昭37ゾ）
安間　　元（昭38エ）
奥野　信博（昭40エ）
高橋　豊美（昭44エ）
伊藤　悦郎（昭45ギ）
高橋　玄夫（昭46化）
赤澤　和範（昭47ギ）
渡辺　安廣（昭49ギ）
今野久仁彦（昭49食）
挽野　恭造（昭51ギ）
飯田　浩二（昭51ギ）
我妻　雅夫（昭52ゾ）
村松　裕史（昭54食）
西川　正一（昭56ギ）
野崎　雅敏（昭56ゾ）
笠井　雅史（昭57ギ）
赤池　章一（昭59ゾ）
北爪　博彦（昭61食）
矢本　　諭（昭62ギ）
本間　隆之（平１ギ）
渡野邉雅道（平１ギ）
工藤　秀明（平３ゾ）
澤村　正幸（平５ギ）
中野　紀彦（平10ギ）
河合　俊郎（平12生）
鶴岡　　理（平15生）
今井　義弘（昭52ギ）
梶原　善之（昭53ギ）
尾島　孝男（昭54化）
種田　貴司（昭56食）
佐藤　友則（昭57食）
中村　慎一（昭58ゾ）
木村　　司（昭61ギ）
山口　重幸（昭62ギ）
今村　　央（昭63ゾ）
宮﨑　永司（平１ギ）
山本　洋一（平２ギ）
井尻　成保（平４ゾ）
黒島　裕司（平６ギ）
宮崎　和貴（平10ゾ）
金森　　誠（平14修環）
岸元　祐二（平15海）



北水同窓会 函館支部
総会・懇親会
2010年7月23日
於：ホテル函館ロイヤル

いま豊かな食生活。
見直しましょう魚のある暮らし。
青森市中央卸売市場
中水
青森中央水産株式会社
代表取締役社長　石　川　栄　一

〒030-0183　青森市卸町１番１号
鮮魚部　TEL　017(738)1281
冷凍部　TEL　017(738)8221
塩干部　TEL　017(738)5511
加工部　TEL　017(738)6581
企画部　TEL　017(738)1281
管理部　TEL　017(738)1181
ホームページ　http://www.aochuu.co.jp

著作紹介

校歌「永遠の幸」のルーツをたどって

野呂雅之（昭56ギ）

朝日新聞土曜版の企画「うたの旅人」に、校歌「永遠の幸」が載ったのは昨年11月27日。その企画に登場させる歌の社内公募があり、迷わず「永遠の幸」を推した。ただ、さすがに母校の校歌そのものでは気が引けたので、「永遠の幸」のメロディーとなった南北戦争の北軍行進曲「Tramp, Tramp, Tramp」で応募したのだった。

「永遠の幸」の詞をつくったのは白樺派を代表する作家の有島武郎で、選曲は納所弁次郎ということは北大生なら誰でも知っている。ところが、納所がなぜ選曲にたずさわったのか、そもそも「Tramp ～」のメロディーがなぜ校歌になったのか、その詳しい経緯はわかっていなかった。

「うたの旅人」に応募したのは、取材によって校歌をめぐる謎を解明するという狙いもあった。だが、札幌農学校19期生だった有島が農学校25周年を記念して校歌をつくったのは明治34（1901）年、すでに110年もの時が流れ、取材は容易に進まなかった。

転機となったのは、北大農学部OBで双日総合研究所社長の多田幸雄さん（58）に出会ったことだ。多田さんは米国で南北戦争を再現する模擬戦に何度も参加し、当時の歌にも詳しかった。

「Tramp ～」の作曲者であるジョージ・ルート（1820-1895）は同時代の音楽家フォスターをしのぐ人気だったといわれ、南北戦争が始まるといち早くリンカーン大統領支持を打ち出した。開戦２日後から北軍を励ます歌をつくり、戦時中に35曲のヒット曲を生み出したという。

北軍にはアイルランド移民も参戦し、「Tramp ～」の旋律は母国に戻った移民によってアイルランドに伝えられ、準国歌といわれる「God Save Ireland」になった。

その旋律が日本に入ってきたのは意外に早く、札幌農学校開校の前年である明治８年。近代国家をめざす明治政府は明治20年にかけて西洋諸国の楽譜を大量に購入し、「Tramp ～」は最初の買い入れ書に登場する。この曲は米国でいくつも歌詞の違う歌が生まれ、教科書にも載った。そうした「文部省買入楽譜」は国会図書館が所蔵している。

日本でも「Tramp ～」の旋律は人気になり、唱歌や軍歌に転用された。明治期を代表する音楽家だった納所弁次郎が編集した「日本軍歌」には、「学びのみち」という軍歌として載っている。

納所は「桃太郎」「うさぎとかめ」などの唱歌の作曲者でもある。明治21年に学習院助教授になり、小学校にあたる予備科で「唱歌」の授業を担当していた。

学習院といえば有島の出身校で、納所が助教授になった年、有島は予備科に在籍していた。納所に唱歌を習った可能性は高い。その翌年に有島は中学科に進んだため、納所との交流はあっても一年だけだろう。だが、かつての恩師に校歌の選曲を頼んだとは考えられないだろうか。

校歌をめぐるこうしたエピソードを記事にまとめたのだが、もうひとつ触れておきたいことがある。

札幌農学校の初代教頭だったクラーク博士は、リンカーン大統領の奴隷解放宣言に賛同して南北戦争に従軍していた。アーモスト大学教授の時に志願し、激戦地を転戦して退役時は北軍大佐だった。

クラーク博士ゆかりの北軍の行進曲が、札幌農学校の校歌になった。不思議な縁というよりも、そうなるのが必然だったように思えてならない

e1 朝日新聞 2010年（平成22年）11月27日 土曜日

be on Saturday

戦闘の地に響いた旋律

北軍行進曲「Tramp, Tramp, Tramp」

うたの旅人

札幌市

■朝日新聞 2010年（平成22年）11月27日（土曜日）より掲載

朝日新聞 2010年（平成22年）11月27日 土曜日 e2

南北戦争時に作られた「Tramp, Tramp, Tramp」

うたの旅人

有島武郎が詞をつけ北大校歌に

■朝日新聞 2010年（平成22年）11月27日（土曜日）より掲載

会員死亡通知

佐藤　　修	（特別会員）	平成23年１月７日	学内より
中村　一雄	（昭10ヨ）	平成22年10月31日	小野里 坦（昭37ゾ）様より
辻田　時美	（昭12ヨ）	平成22年12月13日	学内より
鈴木　辰雄	（昭13ヨ）	平成22年９月２日	川村徹雄（昭41ゾ）様より
田中　正午	（昭13ヨ）	平成22年７月21日	川村一廣（昭33ゾ）様より
荒木　英二	（昭14ギ）	平成22年１月	福島県支部様より
久保　達郎	（昭16ヨ）	平成23年２月11日	山﨑文雄（昭33ゾ）様より
奥田　幸雄	（昭16セ）	平成22年12月１日	ご家族様より
秋元　鴻一	（昭17ヨ）	平成20年11月14日	ご家族様より
斎藤　一郎	（昭19ゾ）	平成20年11月16日	ご家族様より
李　　元棟	（昭20ギ）	平成22年９月29日	國米　学（昭20ギ）様より
北原　　昇	（昭20セ）	平成22年６月21日	ご家族様より
野村　豊秋	（昭22ゾ）	平成21年10月25日	ご家族様より
高橋　　清	（昭23ギ）	平成22年11月11日	八戸支部様より
本多　康宏	（昭23ギ）	平成22年10月24日	柴田勇夫（昭39ゾ）様より
横倉　　寛	（昭23ギ）	平成22年12月26日	服部晴夫（昭23ギ）様より
増永　　堅	（昭23ゾ）	平成22年５月	ご家族様より
浜名　信吾	（昭24ギ）	平成22年１月13日	干場益夫（昭24ギ）様より
松田　謙一	（昭24ギ）	平成22年９月21日	ご家族様より
室澤　宏平	（昭24エ）	平成22年４月10日	ご家族様より
佐藤　誠悦	（昭25セ）	平成22年７月３日	ご家族様より
中川　一平	（昭25セ）	平成22年２月18日	ご家族様より
村上　敏雄	（昭25セ）	平成22年10月７日	矢島清孝（昭45食）様より
岸本不二夫	（昭25ゾ）	平成22年７月14日	ご家族様より
喜田　　豊	（昭25ゾ）	平成20年９月９日	ご家族様より
大上　博司	（昭26セ）	平成23年１月25日	穴澤邦雄（昭26セ）様より
塩谷　賢一	（昭26教セ）	平成22年10月14日	伊勢良一（昭26教セ）様より
久保田正仁	（昭28ギ）	平成22年11月21日	ご家族様より
大坂　武郎	（昭28セ）	平成23年２月５日	小野　齋（昭29ギ）様より
長内　　稔	（昭28ゾ）	平成22年10月27日	白野　仁（昭28ゾ）様より
野口　　信	（昭29ギ）	平成23年１月22日	赤羽登（昭29ギ）様より
須藤　秀雄	（昭29セ）	平成21年11月14日	ご家族様より
宇恵　治郎	（昭30セ）	平成22年８月16日	久保邑男（昭28ギ）様より
小林　克能	（昭34セ）	平成22年６月28日	ご家族様より
石川　享市	（昭35エ）	平成22年９月８日	久保治良（昭35エ）様より
南　　博之	（昭37ギ）	平成23年１月19日	荒川勝尚（昭41ギ）様より
大沢　圭介	（昭37ゾ）	平成22年９月24日	ご家族様より
黒羽　敏夫	（昭40エ）	平成22年２月12日	ご家族様より
徳佐　克博	（昭43エ）	平成22年８月20日	ご家族様より
辻　　慶三	（昭53食）	平成16年	ご家族様より
高林　信雄	（昭56ギ）	平成22年８月１日	青森県支部様より
松本　幸三	（昭58食）	平成20年９月24日	ご家族様より

親潮投稿規定

【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ（2000字程度）までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛のに封書で郵送するか、同窓会メール宛に送付することとする。

【同窓生の声】

同窓会誌に対する意見、感想などについての投稿とする。個人的な連絡は掲載しない。一つの原稿につき300字までとする。同窓会宛のメール（hokusui@hotweb.or.jp）のみ受け付ける。写真は入れられない。

［編集後記］

平成22年度「親潮」第2号（通算296号）をお届けいたします。

同窓生の皆様、お元気で御過ごしでしょうか。今年は函館も寒くて雪の多い冬を迎えております。

本年度第1号から始まりました「北水の今」ですが、今号では、水産学部を中心として行われている大型プロジェクトについて特集しました。知的クラスター創成事業と人材養成事業は今年3年目を迎え、多くの成果が得られつつあります。次号、平成23年度第１号（通算297号）の「北水の今」では、水産学部が10年間に亘って行ってまいりました日韓拠点大学交流事業についてご紹介する予定です。

同窓生皆様からはいつも投稿を頂き、ありがとうございます。来年度第1号（通算297号）の締め切りは、平成23年7月10日（必着）です。寄稿につきましては、郵送もしくは電子メール（hokusui@hotweb.or.jp）にて受付をしておりますので、多くの原稿をお待ちしております。また、本年度から同窓の方々の新しい交流形態として「同窓生の声」の広場を設けております。同窓会誌に対するご意見、感想などを募集いたしております。詳しくは上欄、投稿規定をご参照下さい。投稿の数によっては、すべての同窓生の声を掲載できない場合がありますが、皆様ふるってご投稿ください。

（編集幹事／岸村栄毅　昭60化）

食文化の急速な国際化に伴い水産総合商社を目指す道水

株式会社 道水

代表取締役会長　髙野洋藏（昭和24年製造科卒業）

代表取締役社長　髙野元宏

水産物卸売及び加工販売、水産物輸出入、冷凍冷蔵倉庫、不動産賃貸業

本　社　函館市豊川町27番5号　TEL㈹0138-22-7136　FAX 0138-22-3777

事業所　はこだて工場（北斗市）

東京・札幌・能登・韓国釜山

㈲山本食品研究所

山本　巌（20セ）

山本律彦

〒914-0812 福井県敦賀市昭和町2丁目2316番地

TEL（0770）23－0297（代）

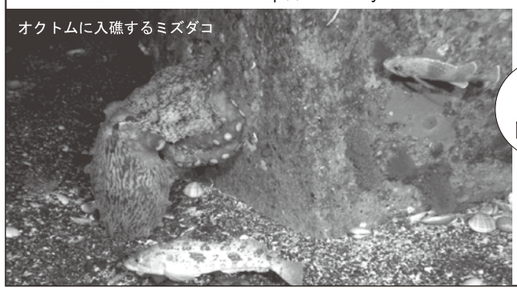
FAX（0770）24－2882

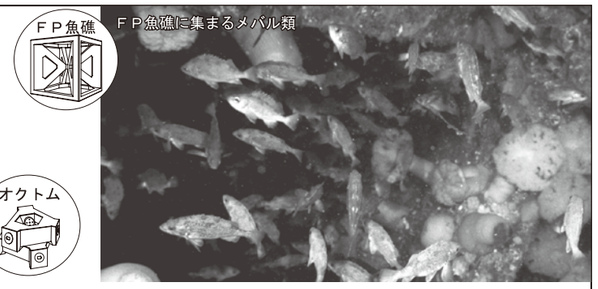
E-mail　y-f-labo@angel.ocn.ne.jp

海洋土木株式会社

本社　東京都中央区銀座3－8－13

TEL：03-3561-3051　http://www.kaiyodoboku.com





専務取締役 石井直志（49ゾ）
取締役相談役 眞田篤弘（48化）
青森営業所長 青山禎夫（39ゾ）
技術部課長 日和久典（平6ギ）
取締役相談役 鉢木和三（38ゾ）
取締役札幌支店長 川眞田憲治（48修増）
札幌支店部長 村井和明（59ゾ）

交通、医療、労働災害事故・会社再建、倒産
サラ金破産、債務整理・個人再生・相続、遺言

相談料は全て無料です

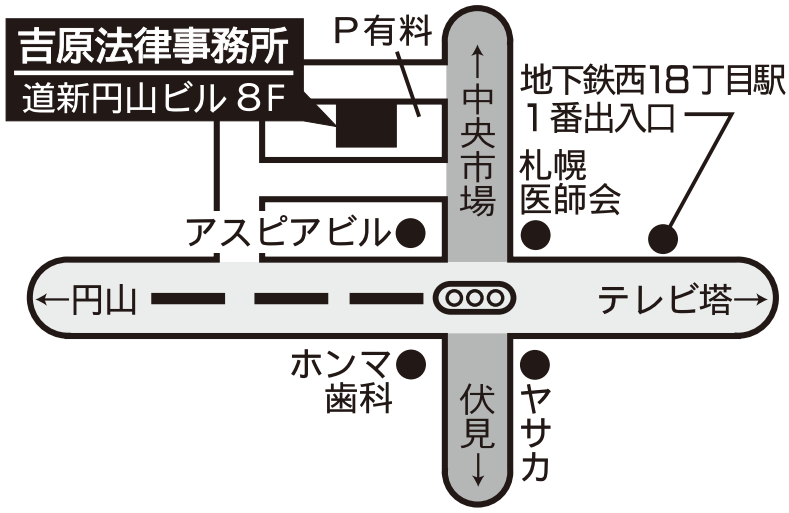
吉原法律事務所

札幌弁護士会　弁護士　吉 原 美 智 世
（昭和 48 年増殖学科卒業）

お気軽にお問い合わせ下さい

TEL 622-7963　FAX 622-8414

札幌市中央区大通西20丁目2-20（道新円山ビル８階）
交通 東西線西 18 丁目地下鉄 1 番出口
E-mail lawyer@yoshihara-lawoffice.jp



営業時間においでになれない方はご相談下さい。